

《研究報告》

精神科看護師の臨床判断に関する研究の動向と課題 —国内外の文献レビュー—

牧 茂義¹⁾, 安藤 詳子²⁾

¹⁾ 檀山女学園大学看護学部, ²⁾ 名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻

要 旨

【目的】 精神科看護師による臨床判断に関する国内外の研究の動向と課題を明らかにする。

【方法】 1983年から2015年3月までの原著論文を、医中誌 Web版で「精神科 and 看護 and 臨床判断」、CINAHLと Medlineで「“psychiatric” and “nursing” and “clinical judgment”」をキーワードとし、検索を行った。抽出された論文を精読し、整理した。

【結果】 国内外ともに質的手法を用いた観察研究が多く、量的手法や尺度開発研究、介入研究は少なかった。国内では、頓服薬投与場面や保護室入室中の患者に対する看護場面、リスクアセスメントとマネジメントに関する研究に限られていた。

【結論】 臨床判断の妥当性を検討する量的研究や臨床判断能力を測定する尺度開発研究が必要である。国内において、患者が地域生活を容易にすごすための看護に向けた臨床判断を検討することが課題である。

キーワード：臨床判断, 文献検討, 精神看護, 精神科, 看護師